



原小だより

～つよく 正しく 朗らかに～

8月号
令和7年(2025年)
7月18日
宇部市立原小学校



かけがえのない夏休みに

校長 早川 真司

今年の梅雨は、平年より少し遅れて始まったかと思えば、6月中に開けてしまうという本当に短いものでした。私が小学生の頃は、しとしとと降り続く雨に傘を差しながら登校し、長靴の中も濡れてしまうこともしばしば。学校からの帰りには、その冷たい濡れた長靴を掃き、いやな気持ちで帰ったものです。次の日の天気予報も当然雨。すると母親が靴の中に丸めた新聞紙を入れてくれていたものでした。「こうやとくと、明日の朝までには乾いちよるいね。」そういつていた母親ですが、実は何度も新聞紙を交換してくれたり、朝、乾いていなかったときにはドライヤーで乾かしてってくれたりしたことを知ったのは、随分成長してからでした。親の愛は、本当に有難い（ありがたい）ものですね。そんなノスタルジックに浸る間もなく、猛暑の中、一学期が終わろうとしています。

この一学期、子どもたちは日々、一人ひとりの成長を見せてくれました。垂直跳びを考えてみましょう。高く跳ぶためには、必ずしゃがみ、力を溜めなければなりません。目に見えるプラスの結果を出すことだけが成長でなく、将来のために力を溜めること、間違える経験をする 것도成長の一つです。跳ぶために蓄えた力や経験を、今後の大きな飛躍に繋げてほしいと思います。

学校で子どもたちの素敵な姿に会えたのも、ひとえに保護者や地域の皆様のご理解・ご協力のおかげです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、子どもたちにとって待望の夏休みが始まります。是非、この長い夏休みでしかできない2つのことにチャレンジして、一度しかない今年の夏休みの思い出をたくさんつくってほしいと願っています。子どもたちのチャレンジを支えてやってください。

最初は、「継続にチャレンジ」です。

私が小学生のときに当時の担任から次のような言葉を聞きました。「3年日記を書いた者は、将来何かを成す者である。10年日記を書いた者は、既に何かを成した者である」。その先生は、こうおっしゃって、日記を毎日の宿題にしていました。別に日記でなくともかまいません。夏休み期間、1日も休まず続けられそうなこと。例えば、読書、手伝いなど、子どもさんと一緒に決めて挑戦させてみてください。自ら定めたハードルを越えることができたとき、大きな達成感が得られるはずです。

次は、「ファースト・チャレンジ」です。

長い夏休みは、様々な活動の時間もたっぷりと取ることができます。つまり、日頃できない体験活動に挑戦する絶好の機会です。自然体験やものづくりなど、「いつかやってみたいな」と温めていたことに是非挑戦させてください。五感（味覚、視覚、聴覚、嗅覚、触覚）をフルに活用できる素敵な体験活動を行うことで、子どもたちの感性がますます豊かになることでしょう。

2学期初日に、少し成長した子どもたちの元気な笑顔に会えることを、教職員一同楽しみにしております。

